子宮頸がん予防対策の強化について

岡本眞利子（おかもと まり こ）

（政清会）



Q 本町のHPVワクチン※の接種と子宮頸がん検診の受診率の数値に対して、住民の健康を守るという観点から、どのような認識をもち、この先進めていくのか伺う。

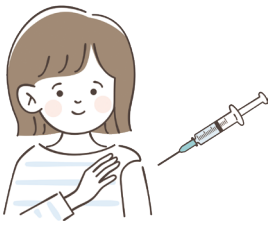
A 町は、住民の健康を守るため、HPVワクチンの接種促進と子宮頸がん検診の受診率向上に取り組んでいる。対象者にはリーフレットや予診票を送付し、広報紙や窓口で正しい情報を周知するほか、健康相談を通じて接種を勧奨している。検診については費用助成や無料クーポンの配布、個別通知による受診促進に加え、スマートフォンやパソコンからの24時間申込みを可能にし、利便性を向上させている。子宮がんの早期発見を目的に関係部署が連携し、正しい健康意識の浸透を図っている。

Q 男性のがん予防についてもHPVワクチン接種は重要であり、女性への感染拡大を防ぐだけではなく、自らの命を守るという観点から男性のHPVワクチン接種の周知啓発をしていくべきでは。

A HPVは男女問わず感染するウイルスであり、男性では肛門がんや尖圭（せんけい）コンジローマの原因になる。男性のHPVワクチン接種は自身の感染予防に加え、女性への間接的効果として子宮頸がん予防につながる。令和７年８月に新たに９価ワクチンが薬事承認されており、町としてはワクチンの効果や副反応などを周知啓発していく。

※ HPV ワクチンとは？
子宮頸がんなどの原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を予防するためのワクチン。

▲「HPVワクチン」について（町ホームページ）





▲厚生労働省 リーフレット

命守る避難所・防災体制を

酒井はやみ（さ かい）

（日本共産党
幕別町議員団）



Q 48時間以内にトイレ・キッチン（温かい食事）・ベッドを整える、「TKB48」を位置付ける考えは。

A 災害時の避難生活でトイレ、キッチン（温かい食事）、ベッドの整備を重要であると認識している。国のスフィア基準への準拠を念頭に置き、地域防災計画を改正し、防災備蓄計画で避難所の資質向上のための物資や防災資器材の備蓄を新たに位置付けた。すでにポータブルトイレや簡易ベッドを備蓄し、フードトラック協会等との協定で温かい食事提供の確保体制も強化している。国からTKB48に関する指針が示された際には、迅速に対応するとともに、広域的な資機材確保体制の充実に向けて関係機関へ働きかけていく。

Q 指定避難所となる学校体育館にエアコンを。

A 避難所となる学校体育館は学校施設であり、教育委員会と協議を進めている。国の補助制度を活用し整備を進める方針であり、国の動向を注視し、財政支援の拡充を国に求めていく。

Q 地域住民と職員が共同で、実践的な避難所開設訓練を行う考えは。

A 幕別町防災訓練計画に基づき、住民への防災知識の普及と技術向上を目的に地域防災訓練を実施してきた。訓練を機に自主防災組織の設立や合同訓練の実施が進んでいる。令和７年度には職員を対象とする避難所開設訓練を実施し、今後も継続する。訓練による課題を整理した上で、地域住民や自主防災組織と連携し、住民が主体的に参加する訓練を段階的に進めていく。これにより防災力を強化し、災害時に安全・安心な避難所運営を図っていく。



▲「１日防災学校の様子（明倫小学校）」（令和３年）